

研究協力をお願い

この研究は、大阪医科薬科大学 研究倫理委員会にて審査され、研究機関の長の許可を受けたうえで実施しております。ご理解・ご協力のほど、よろしくお願い致します。

大阪医科薬科大学 病理学教室

記

研究の名称	人工知能（AI）を用いた炎症性腸疾患の病理診断システムの構築と検証
対象	2010 年 1 月 1 日から 2025 年 4 月 30 日までの期間に炎症性腸疾患のため生検または切除術を受けた患者さんの病理診断に用いた、既存のヘマトキシリン・エオジン（HE）標本およびパラフィンブロックを研究に利用いたします。本学では、100 例（潰瘍性大腸炎とクローン病を合わせて）を予定しています。
研究期間	研究実施許可日（2025 年 7 月 15 日） ～ 2030 年 4 月 30 日
試料・情報の利用 目的及び利用方法	利用目的：炎症性腸疾患（IBD）は腹痛を伴う原因不明の難病で、潰瘍性大腸炎とクローン病が含まれます。IBD の診断において、病理医による病理診断は重要な要素を占めています。病理診断では、患者さんの臓器の一部をガラス標本にし、病理医がこれを観察します。昨今、病理診断の業務量は増大し、病理医が不足しています。今後は、病理医の診断をサポートする自動診断システムの開発が急務となっています。これまで内視鏡画像、放射線画像、病理画像、カルテ情報を用いた IBD の人工知能（AI）診断について報告がなされてきました。 しかし、複数の画像や情報を統合した AI 診断システムは報告されていません。本研究課題では、これまでの研究成果を元に、AI を用いた IBD の病理診断システムを構築します。また IBD 患者さんの病理画

	像とカルテ情報を収集し、AI を用いた IBD の病理診断システムの精度（正しさ）を検証します。 利用方法：患者さんの病理診断に用いた既存のガラス標本やパラフィンブロック、および診療情報を抽出し解析を行います。抽出した診療情報は、加工して個人を特定できないように対処したうえで取り扱います。研究結果は学会や学術誌で発表される予定です。 利用又は提供の開始予定日：研究実施許可日（2025 年 7 月 15 日）
利用し、又は提供する試料・情報の項目	試料：病理診断に用いた既存の HE 標本およびパラフィンブロック 情報：現病歴、身体所見、血液検査所見、画像所見、内視鏡所見等
利益相反について	本学は、臨床研究を含む自らの研究成果について積極的に地域社会へ還元することとて、社会から求められる研究拠点を目指しております。一方で、研究に関連して研究者が企業から経済的利益を得ている場合には、研究の成果が歪められる、または歪められているとの疑念を抱かれる可能性が出てきます。このような利益相反の状態を適切に管理し、研究の透明性、信頼性および専門性を確保していることを社会に適切に説明するため、この研究は、本学の利益相反マネジメント規程に則して、実施されております。 当該マネジメントの結果、本研究に関して開示する事実がない旨をお伝えします。
研究者名 【研究責任（代表）者】 大阪医科薬科大学 病理学 助教 浜本 雄一郎	
参加拒否の申し出について ご自身の既存のガラス標本およびパラフィンブロックを研究に利用させて頂くことに対する問	

い合わせ、参加拒否を申し出たい場合は、下記の連絡先までお願いいたします（対象者の代理人からの申し出も受付いたします）。参加拒否の申し出をされた場合は、研究の対象から削除し、研究利用をいたしません。しかしながら、研究結果が出た後の参加拒否の申し出については、研究の対象から削除することができかねますので、予めご了承ください。

問い合わせ窓口

〒569-8686 大阪府高槻市大学町2番7号

大阪医科薬科大学 病理学

担当者 浜本 雄一郎

連絡先 072-683-1221（代） 内線 54306

研究参加拒否書

大阪医科薬科大学 学長 殿
大阪医科薬科大学病院 病院長 殿

大阪医科薬科大学
研究責任者 浜本 雄一郎 殿

研究の名称	人工知能（AI）を用いた炎症性腸疾患の病理診断システムの構築と検証
-------	-----------------------------------

私は、上記研究への参加について検討した結果、研究参加を拒否します。

年 月 日 対象者 住所

氏名（自署）

※ご本人が自署できない場合は、代諾者の方がご記入ください。

代諾者（続柄： ）

住所

氏名（自署）